

趣のある
空間

縁側 の話

北海道でも、明治時代くらいまでは

本州と同じ造りの縁側のある家が建てられていました。

しかし、厳しい寒さの北海道には向いてなく、

次第に縁側のある家は姿を消していききました。

本州においても洋風建築が主流になった現在、

なかなか見かけなくなりました。ところが最近、本州、

さらに道内においてもあえて縁側を作るケースが

増えてきているようです。道民にとって

それほど馴染みがないはずなのに、どこか懐かしい。

今回はそんな「縁側」の話です。

縁側とは

縁側とは一般的に、部屋と庭の間に
ある板張りの空間のことを差しま
す。縁側には主に二種類あり、雨戸や
ガラス戸などで仕切られた屋内に設
置するものを「くれ縁」、屋外に設置
するものを「濡縁」と言います。「濡
縁」にはさらに家と一体化したもの
と、家や地面に固定せず場合によっ
ては移動可能なものがあります。い
ずれも軒下に設置することで上部が
守られている構造で、家の中と外を
繋ぐ中間の空間になります。

ウッドデッキとの違い

ウッドデッキも木製で、庭に設置さ
れる点では縁側と似ています。異な
る点として、縁側は軒下に設置しま



すがウッドデッキは必ずしも軒下に
設置するものではありません。また、
縁側は軒下に収まるサイズが原則で
すが、ウッドデッキは広いスペースを
確保できるため、バーベキューや子ど
もの遊び場などの用途に向いていま
す。実際に設置する際は、家の雰囲気
が和風なら縁側、洋風ならウッドデッ
キを選ぶことになるでしょう。

縁側のメリット

縁側は何より趣が感じられ、夕涼
みをしたり、庭を眺めたりできる、
憩いの空間です。庭で水遊びや花火
をする子どもたちを見守る、家族の
ふれあいの場でもあります。「くれ
縁」は夏場、日光を直接部屋に入れ
ないの同時に風通しを良くするこ
とで、室温が大きく上昇するのを防
ぎます。冬場も、外とワンクッション
置くことで冷気を遮るのに役立ち、
雨の日には洗濯物を干すスペースと
しても活用できます。

縁側のデメリット

「くれ縁」の場合、日差しが直接入
らないため、部屋に湿気がたまりや
すくなります。定期的な換気を心が
けましょう。また、屋内のスペースを
使用するので、その分、居住部分が狭
くなることも念頭に置きましょう。
せつかくの縁側を有効活用しないで
いると、いつの間にか物置スペース
に、なんてことも。開放的な分、道路
から室内まで見えやすいので、堀で
目線を遮るなどプライバシー保護や
防犯にも気を使っべきでしょう。

